

【小学生の部最優秀賞】

一生懸命ってなんだろう

三重 旺 武道場

鈴鹿市立石薬師小学校 五年



いちかわ ゆうき
市川 侑樹

「もっと一生懸命にやりなさい。」最近、よく言われる言葉だ。この言葉を言われるたびに胸がザワザワして、「僕は一生懸命やってる。」そう言いたくても言えないモヤモヤが心の中に降り積もっていった。剣道が嫌になってきた……。僕は剣道が好きだった、稽古は大変だけど、たくさん友達ができて、僕にとっては大切な時間だった。だけど、最近試合に勝てなくなってきた、練習試合でもみんなは勝っているのに僕だけ勝てない、みんなと同じように遠征にも行って、稽古もしているのに、どうしてだろう。負けてばかりでどんどん自信がなくなってきたところから「もっと一生懸命やりなさい。」と言われるようになった。勝てない理由を一生懸命していかないからと言われる気がした。剣道が嫌だという気持ちが強くなったのは、負けたからじゃない、がんばっていないと思われていることが嫌だった。

剣道に対して背中を向けている僕を見て、「気持ちやろ。」と兄に言われた。兄も剣道に挫折した経験がある。兄は小学六年生の時、コロナが流行し、中学では、剣道部がなかったため、中学三年の秋までほとんど道場に行かなかった。何度もやめたいと母や先生に言っていた兄の姿を覚えている。道場に行かないのに先生はやめることを認めてくれなかった。兄も勝てなくなると頑張ってないと言われることが辛かったと聞いた。今の僕と全く一緒だ。兄は卒団式の前から少し行くようになって、「もう絶対に剣道はしない。」と言って卒団した。ところが高校に入って剣道部に入るだけでなく、毎週道場にも来

るようになった。あんなに嫌がっていたのに、言っていたことと違う……。僕は高校の兄の試合を見に行った。団体戦、代表戦となり兄が出ることになった。兄より年も体格も上の相手だったけど兄は前に前に攻めていた。試合は負けてしまったけど、戻ってきた兄の目が泣いて赤くなっていたのがわかった。兄は言い訳せず、ただ歯を食いしばって、僕たちの前で泣くのを我慢していた。僕はいつも負けた時、相手が強い子だとか、体が大きいか、悔しい気持ちよりも、言いわけばかりしていた事に気がついた。兄が言った「気持ちやろ」という言葉は、辛いことや嫌なことから逃げている僕の心の弱さのことだった。兄はきつと自分も同じことを経験したから僕に足りないことを言ってくれたんだと思う。僕の「がんばっている」は「がんばっているつもり」だったんだ。やめたいと思っていたけど、がんばってみようと思えるようになった時、体が重くなって熱が下がらなくなっていた。

何度も何度も検査してやっと病名がわかった。「川崎病」だった。入院することになって、剣道をしないのではなく、できなくなってしまう。正直に言うと、「せつかくやる気になったのに」という気持ちと、「しなくてすむんだ」というまだ剣道に向き合えていない気持ち半々だった。

退院して二週間たったころ、素振りから少しずつ始めることになった。久しぶりの道場、久しぶりの友だち、久しぶりの素振り、何だか気持ちよかった。帰ってから、「また行きたい」という気持ちになった。剣道を始めたころに思った気持ちを思い出した。「一生懸命って何だろう」結局その答えはまだわからない、でも僕は、久しぶりに感じたこの「また行きたい」という気持ちを大切にしたいと思った。剣道をやめようと思っていたけど、もう少しがんばってみよう。今やめたら兄のように気持ちが変わることも、一生懸命の意味もわからないままになってしまう。これから剣道を通して答えを見つけていきたいと思う。